

防災ニュース 第18号



雷からどう身を守る!?

～ 温暖化による落雷の増加 ～

皆様こんにちは。毎年のように落雷によりケガをしたり亡くなる人が出ています。また火災を引き起こしたり、電子機器を故障させたりと、経済被害は年間1,000億円以上とされています。全国の气象台や測候所の報告によれば、落雷被害の大半は7～9月に集中しており、更に近年の温暖化により発生数が増加しています。

私たちは生命と財産を守るため、雷に関する正しい知識で備えることが重要です。(出典：気象庁ホームページ、NHK防災情報)

【 雷とは? 】

夏のある日、お昼ごろまでは快晴だったのに、午後を過ぎるといきなり雷雨に。この天候の急変は、積乱雲の発達によるものです。夏の積乱雲は入道雲とも呼ばれますが、発達した積乱雲は時に強雨、突風や落雷をもたらします。日本では、多い年でひと月に約100万回、少ない年でも10万回程度、落雷が観測されます。

【 雷鳴は危険のサイン 】

雷の音が聞こえたら、建物や車の中など安全な場所へすぐに避難しましょう。稲光を見てから、音が聞こえるまで間隔があっても「大丈夫」と安心はできません。音は1秒間に約340m進みます。稲光を見てから音を聞くまで10秒だったら、3.4km先で雷が発生したことになります。しかし雷雲の大きさは数十kmあります。つまり雷鳴が聞こえた時は、既に雷雲の下にいて、いつ落ちてきてもおかしくないのです。



【 積乱雲の接近・雷注意報にも注意 】

この他にも、発達した積乱雲が近づいている兆候がある時も注意して下さい。積乱雲が近づくと急に周辺が暗くなる、冷たい風が吹いてくる、雷が降ってくるといった変化があるので分かります。また、気象庁が雷注意報を出している時も外出を控えたり、時間をずらして下さい。

【 落雷の危険が高い場所は? 】

平地、海岸、山頂や尾根などの開けた場所では、人体を直撃しやすくなります。

ゴルフ場・キャンプ場

ゴルフ場やキャンプ場、グラウンドなど周りに高い建物がない平地はとても危険です。野球場などには避雷針が設置されていることがありますが、守られるのはせいぜい数十m程の範囲なので、広いグラウンドの場合は非常に危険です。また、雷は高い所に落ちやすい性質があるので、釣り竿やゴルフクラブなど長い物を体より高く突き出すのは危険です。先の尖った物は特に危険なので、雷雨の時は傘をささないようにしましょう。

海上・海岸

高い物がない海上では人への落雷の危険性が増します。実際に、ウィンドサーフィン中に被害を受けたケースもあります。海水を伝わって流れてきた雷に感電し、溺れてしまう被害も報告されています。2016年7月には沖縄県糸満市のビーチの広場に落雷があり、4人がケガをするなど、海上にいれば安全ということではありません。しかもこの時は、近くにビーチの管理棟やトイレなどの建物があったにもかかわらず、地面に雷が落ちました。雷に気づいたら、すぐに水から上がり、頑丈な建物に避難しましょう。



木の下・森の中

木の下にも避難しないで下さい。木に落ちた雷の電流が、電気を伝えやすい人体に飛び移ることがあります。これを側撃雷と言います。林や森のように木々が生い茂っている場所も安全とは言えません。ただ、5～30mの高さがある木などがあれば、4m以上離れた上で、木の頂点から45度の角度に入る範囲は「保護域」と呼ばれて安全です。

野外フェス・花火大会の会場



野外フェスや花火大会の会場などは多くの人が集まるため、思うように避難できないこともあります。

2017年8月には花火大会の会場だった多摩川の河川敷に落雷がありケガ人が出ました。河川敷は海水浴場や山の稜線などと同じく周囲に逃げる場所がなく危険です。多くの人で思うように移動できなかつたり、場所取りを

している場合は出来れば動きたくないという心理が働いたりして、避難が遅れてしまいがちです。こまめに気象情報を確認し、早めに会場を離れる決断が大切です。

【 活動再開の30分ルール 】

活動を再開しても大丈夫だという目安は「雷鳴が30分聞こえない」ことです。但し、周囲に雷雲がないか、気象庁のホームページやNHKニュース防災アプリなどで雨雲レーダーを確認して下さい。

【 屋内でも注意が必要 】

鉄筋コンクリートなどしっかりした建物の中にいれば、万が一落雷したとしても、電気は建物の壁を通して地面に吸収されるので安全です。木造建築も基本的には安全ですが、電話や電気器具、水道の蛇口など金属に触れていると感電の危険があります。いずれの場合でも、屋内にいる時に雷が近づいてきたら、電気器具、天井、壁からは1m以上離れましょう。実際に車や家の中で感電した例もあり、屋内だからといって100%安全とは言いきれません。また、パソコンなどを保護するためにコンセントやLANケーブルは抜き、念のためデータを保存しておきましょう。

損害保険会社によると、雷による電化製品の被害は多く、年間の被害額は1000億円から2000億円と推定されています。オフィスでは、SPD（避雷器）を設置するなどの対策も重要です。

以 上